国土交通省 関東地方整備局
荒川上流河川事務所

荒川ロックゲート　～川の「エレベーター」～

荒川と隅田川を結び、舟運・防災の新たな扉を開きます。

荒川上流部改修から100年 1918-2018

荒川ロックゲート空撮

水路両側の階段型護岸は観客席にもなり、
ゲート開閉や水位調節の様子がわかります

荒川ロックゲートとは

江戸川区にある荒川ロックゲートは荒川と旧中川とを結ぶ閘門（こうもん・ロックゲート）と呼ばれる施設です。ロックゲート（＝閘門）とは、水面の高さが違う2つの川のあいだを船が通行出来るようにするための施設で、川と川のあいだに水門をつくって、水位を調節し、水面の高さを同じにして船を通します。荒川と旧中川は水面差が最大3.1mにもなるため、船の往来が不可能でしたが、ロックゲートの完成によって、荒川と旧中川、小名木川、そして隅田川が結ばれました（2005（平成17）年10月完成）。

災害時に鉄道や道路が使えなくなったとき、川を通して救援物質や復旧資材の運搬、被災者の救出など災害復旧活動の支援が出来るようになるなど、地域の防災拠点として活躍します。

▶ 江東デルタ地帯の新しい防災ネットワーク

荒川ロックゲートの完成によって、水の高さが異なる荒川と江東デルタ地帯の河川、そして小名木川を通じて荒川と隅田川が結ばれます。これにより、災害時においては、救援物資や復旧資材の運搬、被災者の救出など災害復旧活動の支援が可能となり、広域的な防災ネットワークとして活躍します。また、平常時においてもプレジャーボートでの水上観光やカヌー、レガッタ、Ｅボートでの舟遊びなど、 水辺ならではの楽しさが広がり、川と川を通じた新たな交流が期待されます。

江東デルタ地帯の防災ネットワーク

▶ 地震や洪水の自然災害に弱い荒川下流域

荒川下流域においては、主に地下水の汲み上げが原因で地盤沈下が進み、最も沈下した地区では4.5m以上の沈下を記録しています。そのためこの地域は東京湾の満潮面よりも低い“ゼロメートル地帯”となっています。

荒川下流域では水害に備え、荒川放水路の完成後も、堤防の嵩上げを行うほか、救急救援活動、復旧活動に必要な人、物の輸送を担える施設として多数の船着場を整備しています。阪神・淡路大震災では、ビルや高架橋の倒壊等によって鉄道や道路といった陸上交通に大きな被害が生じた際、地震直後の物資や人員の輸送などの災害復旧活動において水上交通は大きな役割を果たしました。

また、荒川ロックゲートは、震災時の支援活動が速やかにできるよう閘門としては初めて阪神・淡路大震災クラスの地震でも閘門・ゲートが耐えられるように設計されており、非常時には速やかな船の通行が可能となっています。2011（平成23）年3月11日に発生した東日本大震災でも補修が必要となる被害は発生しませんでした。

コラム 防災･観光･物流の拠点　緊急用船着場

東京低地河川には救急救援活動、復旧活動に必要な人、物の輸送を担える施設として多数の船着場が整備されています。

しかし、これまでに整備された船着場の多くは、平常時の利用が少なく、また、使用している者も限定的であることから、緊急時に安全かつ確実に船着場が使用できるか懸念されます。

このため、東京低地河川を活用した防災対策を確実かつ実効性のあるものとするため、平常時における船着場の利用方法・ルール等を検討することが喫緊の課題となっています。

荒川ロックゲート付近にある
小松川緊急用船着場

アクセス

荒川ロックゲート
交通：都営新宿線「東大島駅」より徒歩15分
住所：東京都江戸川区小松川1丁目

荒川ロックゲート

出典　荒川下流河川事務所「荒川ロックゲートフェス　チラシ」「荒川ロックゲート」／江戸川区HP

荒川上流部改修100年の詳しい情報はこちら→